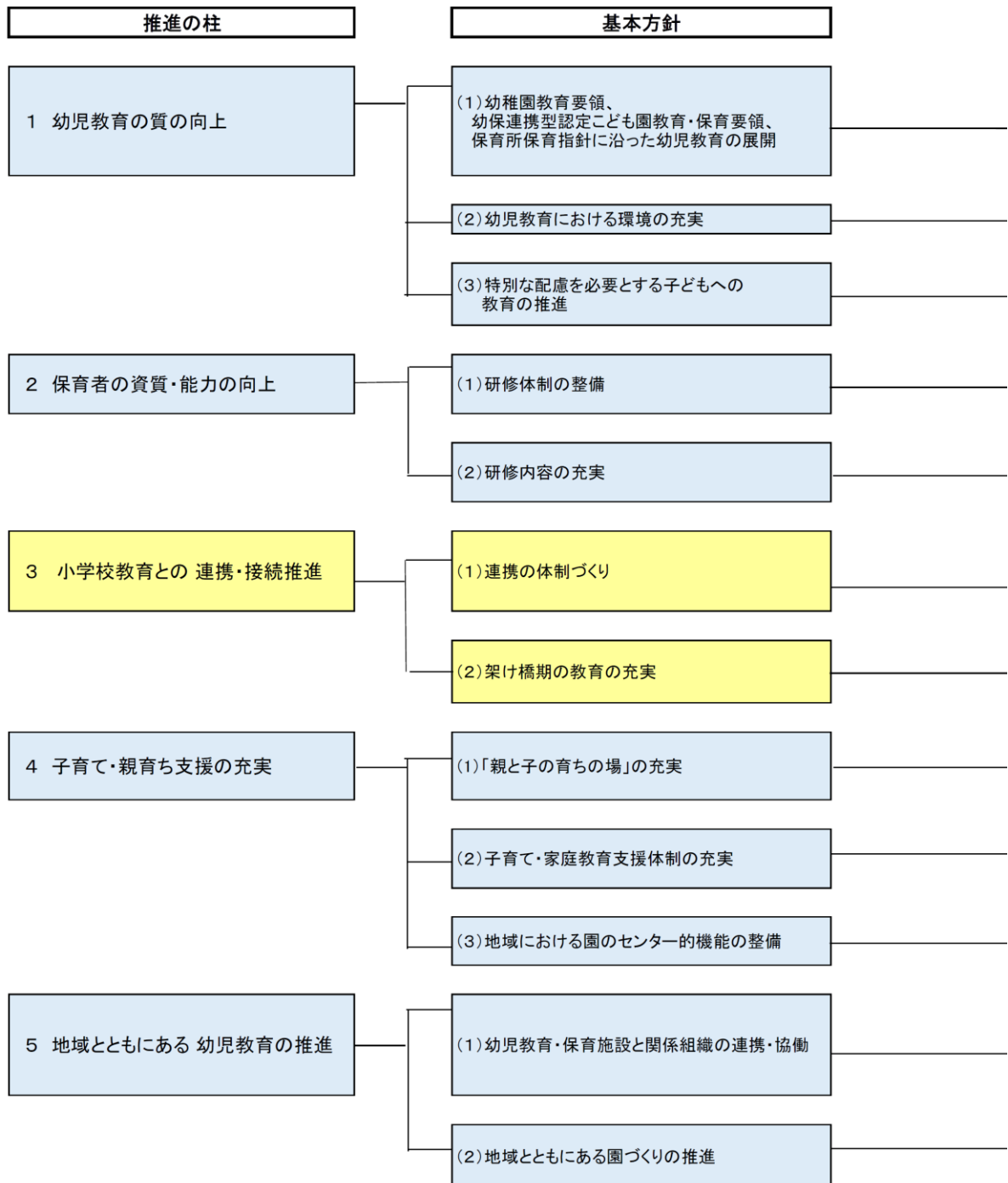




推進の柱 3 小学校教育との連携・接続推進

【体系表】



教育・保育の相互理解を
進めましょう



目標

- ①幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の内容の理解と実践
②教育・保育内容の充実
③自己評価を中心とした学校評価・園評価の活用・推進
- ①幼児教育における環境の整備・改善
- ①支援体制の整備・充実
②個別的教育支援計画等の作成・活用及び関係機関との連携・協働
- ①体系的な研修計画の整備・充実
②組織的・計画的な研修の推進
- ①専門性の向上のための研修の充実
②地域における学び合いの場づくり
- ①持続可能な連携の体制づくり ～組織をつなぐ～
②連携・交流の推進 ～人をつなぐ～
- ①架け橋期のカリキュラムへの発展 ～教育をつなぐ～
②幼保小の協働による架け橋期の教育の充実
- ①多様な場を活用した交流機会の提供
②保護者の育ちを応援する学びの機会の充実
③親と子の生活習慣づくりの支援
- ①関係機関と連携した子育て・家庭教育支援体制の充実
②家庭や地域における子育て・家庭教育支援体制の充実
- ①幼稚園・認定こども園・保育所等におけるセンター的機能の充実
- ①連携体制の整備
②市町村における幼児教育の充実に向けた政策プログラムの策定・改訂
③多様な幼児教育・保育施設の連携推進
- ①地域資源の積極的な活用
②子どもとともに育む地域づくり

生活科や総合的な学習の時間、体験入学、行事等を通しての交流など、年間計画に基づく実践を進めましょう。



3 小学校教育との連携・接続推進

幼児期は「遊び」を通して、学びの土台となる資質・能力を身に付ける時期です。小学校等においては、学びをゼロからスタートするのではなく、幼児期に身に付けた資質・能力を生かし、伸ばしながら教科等の学びにつないでいくことが大切です。幼保小の円滑な接続をめざす3つの「つなぐ」（「組織をつなぐ」「人をつなぐ」「教育をつなぐ」）をキーワードに、0歳から18歳までの学びの連続性を配慮し、「架け橋期」（※1）の教育の充実に努めます。

基本方針（1）連携の体制づくり

目標① 持続可能な連携の体制づくり ～組織をつなぐ～

子どもに関わる全ての関係者が、立場の違いを越えて、子どもの姿を中心に対話しながら、架け橋期の教育を充実できるよう、持続可能な連携の体制づくりに努めます。

【推進のための具体的な取組】

【県・県教育委員会】

- 市町村、園及び小学校等における幼保小連携・接続に係る取組への支援
 - ・幼保小接続推進研修会の開催
 - ・幼保小の架け橋プログラム推進事業の実施
 - ・幼保小接続アドバイザーの派遣
 - ・市町村・設置者主催研修会の支援
 - ・園・小学校等での連携推進担当者（連携窓口）の明確化の推進
 - ・取組の好事例の収集・発信

【市町村・設置者】

- 各市町村において、幼保小の担当部局の連携・協働や幼保部局の一元化を図りましょう。
- 幼保小連携の推進と取組の支援をしましょう。
 - ・市町村・設置者主催研修会の開催・充実
 - ・研修教材の開発・活用
 - ・幼保小連携推進のための関係者会議（連絡協議会（※2））の設置と支援
 - ・各小学校区等で幼保小連携に取り組む園・小学校等の支援（事業実施校区）

【幼稚園・認定こども園・保育所・小学校等】

- 持続可能な連携の体制づくりをしましょう。
 - ・小学校区等における管理職による連絡協議会の充実と定着
 - ・連携推進担当者（連携窓口）の位置づけ
（園内・校内への情報発信による全職員の意識啓発と参画）
 - ・幼保小で協働して作成する年間連携（交流）計画の作成・活用
 - ・情報交換のための定期的な連絡会（※3）の充実と定着
 - ・架け橋期の子どもの育ちについての引継ぎ（個別の引継ぎも含む）
 - ・園、学校、学級だより等の送付・掲示等

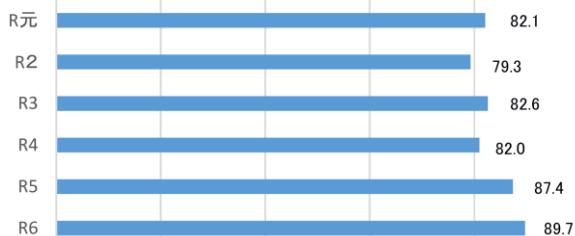
※1 架け橋期・・・5歳児から小学校1年生の2年間

※2 連絡協議会・・・主に小学校区内の園及び小学校等の管理職等が、自園及び自校の子どもの様子や連携・接続の取組の方向性等について協議する会

※3 連絡会・・・・・・主に年長担任や1年担任といった架け橋期の子どもに関わる者や幼保小連携・接続を推進する立場にある者等が、自園及び自校の子どもの様子や連携・接続の取組の実際について協議する会

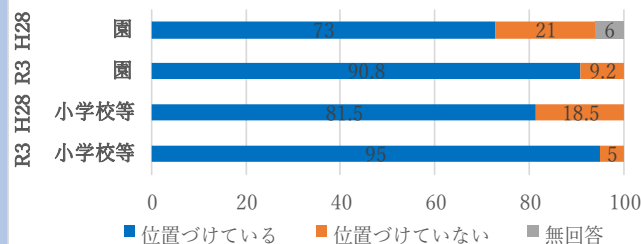


管理職の連絡協議会実施

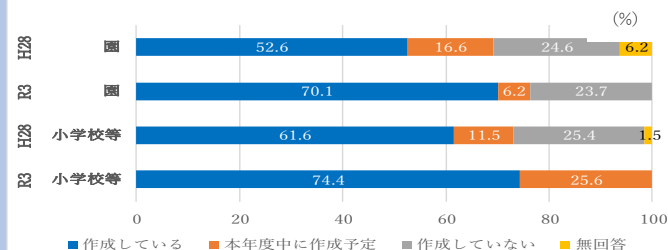


「令和6年度学校教育実施状況調査」(小学校等)

連携(交流)担当職員の位置づけ (%)



年間連携(交流)計画の作成 (%)



「令和3年度幼児教育調査結果」(令和4年3月)

POINT

園・小学校等双方の連携(交流)担当者の位置づけが進み、計画的・継続的な取組が推進されています。そのため、約半数の園で、児童との交流活動が充実し、幼児が小学校等への入学を楽しみにし、主体的な遊びや生活に取組む姿につながっています。

園においては、幼児期に育んだ資質・能力を小学校等に伝えたり、保護者が入学に対して期待や安心感をもったりする等、連携・接続の成果が表れてきています。

小学校等においては、幼児と児童の交流活動が充実したり、1年生の安心感のあるスタートにつながったりしています。



子どもの育ちと学びをつなぐための「3つの『つなぐ』」

組織をつなぐ

- 管理職同士のつながり(連絡協議会等)
- 連携推進担当者同士のつながり(連絡会等)
- 架け橋期の子どもの育ちについての引継ぎ
- 園、学校、学級だより等の送付・掲示等

人をつなぐ

- 子ども同士の交流
 - ・互いのねらいを明確にした交流
- 教職員等の相互理解
 - ・保育参観・授業参観
 - ・保育体験・授業補助体験等

教育をつなぐ

- 期待する子ども像(めざす子ども像)についての協議
- 共通の視点での話し合い・相互理解
- 架け橋期のカリキュラムの編成・実践・評価・改善

幼児期に身に付けた力を小学校等以降の学びにつなぐために参考となる取組等を紹介しています。地域や自園・自校の実態に合わせて活用することができます。

* 幼保小連携・接続のポイントについては資料2(97ページ)参照



連絡協議会



年に数回、園長・校長が集まり、校区の円滑な接続に向けて、めざす子どもの姿やカリキュラム等について話し合っています。

連絡会



1年生の授業参観、講演会後の連絡会では、子どもの姿や幼保小連携・接続について意見交換等を行っています。

POINT

園・小学校等では、大切にしている教育・保育の内容や指導方法等、相互の認識や意識の差があります。園・小学校等の双方が大切にしている教育・保育内容や指導方法等について相互理解を深めていけるよう、小学校区等の教職員が語り合える体制の充実を図っていきましょう。

基本方針（１）連携の体制づくり

目標② 連携・交流の推進 ～人をつなぐ～

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、子どもの育ち（姿）を語り合ったり、互いの教育内容や指導方法の理解を深められたりするよう、幼稚園・認定こども園・保育所・小学校等の教職員等の連携・交流の充実に努めます。

【推進のための具体的な取組】

【県・県教育委員会】

- 小学校区等の幼保小連携・接続に係る研修会の支援、指導助言（幼保小接続アドバイザー派遣）
- 幼保小相互の訪問交流による情報の共有の推進
- 教職員等の連携・交流の好事例の収集・発信

【市町村・設置者】

- 教職員等の相互理解体験研修を開催しましょう。
 - ・保育体験の実施
 - ・授業補助体験の実施
- 幼保小相互の訪問交流による情報共有の推進と取組の支援をしましょう。
- 小学校区等の幼保小連携・接続に係る研修会の実施・支援をしましょう。



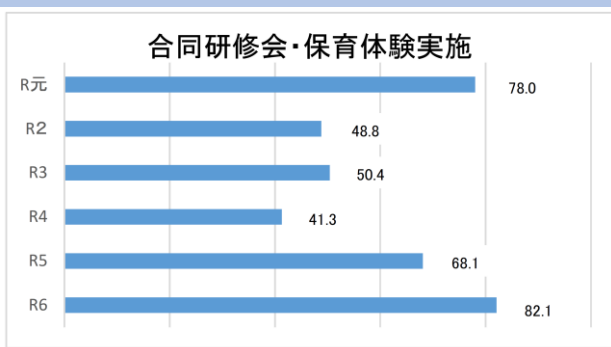
【幼稚園・認定こども園・保育所・小学校等】

- 幼児教育・小学校教育の相互理解を深める機会を設けましょう。
 - ・保育参観・授業参観とその後の協議の充実
 - ・園・学校行事等への積極的な参加
 - ・保育体験・授業補助体験の実施
- 互恵性のある交流をしましょう。
 - ・計画的、継続的な交流
 - ・園と小学校等の教職員の対話の機会となる事前事後の打ち合わせ
 - ・互いにねらいをもった交流（例：里帰り交流・水遊び・秋見つけ等の体験活動・給食交流・休憩時間に一緒に遊ぶ等の交流・学校見学等の施設訪問・読み聞かせボランティア 等）
- 園児が小学校等への期待や見通しをもてるよう活動の工夫をしましょう。
 - ・体験入学 ・オープンスクール 等
- 小学校区等、中学校区内の園同士の交流をしましょう。
- 地域や家庭も一緒に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとし、子どもの姿を中心に話し合いを深めましょう。



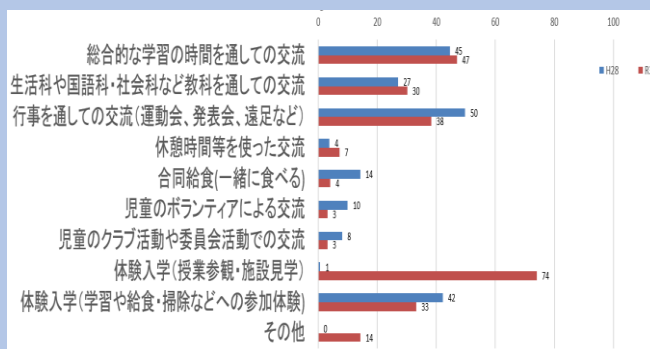


【教職員の交流・連携】



「令和6年度学校教育実施状況調査」(小学校等)

【幼児と児童の交流】



「令和3年度幼児教育調査結果」(令和4年3月)

- 保育・授業の相互参観
- 交流活動の打ち合わせ
- 入学時期前後の連絡会や聞き取り 等の取組も進められています。

POINT

年間計画に基づいた総合的な学習の時間や生活科などの教科、体験入学、行事等を通しての交流を進めていきましょう。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について

幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことができるようにすること。また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。

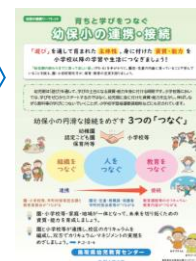
【小学校学習指導要領総則】

POINT

園・小学校等の合同研修会や保育・授業の相互参観の中で、幼児・児童の生活や発達・指導方法を相互に理解しながら取組を進めていきましょう。



幼保小接続リーフレットとして、取組紹介・幼保小接続アドバイザー派遣について掲載しています。御活用ください。



基本方針（２） 架け橋期の教育の充実

目標① 架け橋期のカリキュラムへの発展 ～教育をつなぐ～

幼児期から児童期の発達を見通しつつ、５歳児のカリキュラムと小学校１年生のカリキュラムを一体的に捉え、架け橋期に育成をめざす資質・能力を視野に入れながら、地域の幼児教育と小学校教育の関係者が協働して、架け橋期のカリキュラム（＊１）の策定に努めます。

【推進のための具体的な取組】

【県・県教育委員会】

- 架け橋期のカリキュラム検討・開発に向けた取組の推進
 - ・架け橋期のカリキュラム開発会議（＊２）への支援
 - ・鳥取県架け橋期のカリキュラムの検討・開発のポイント（令和５年６月）の活用
- 架け橋期のカリキュラム開発会議による実施の検証・運営の支援
 - ・園・小学校等との関係機関・関係団体との連携のコーディネート
- 取組の好事例の収集・発信

【市町村】

- 架け橋期のカリキュラム開発会議を設けましょう。
 - ・構成員の選定とめざす方向性の共有
 - ・地域の実態の把握
 - ・園・小学校等との関係機関・関係団体との連携のコーディネート
 - ・方針の検討・決定、開発への支援（枠組）
 - ・接続カリキュラムから架け橋期のカリキュラムへの発展
- 持続的・発展的な架け橋期のカリキュラム開発会議の運営をしましょう。

【幼稚園・認定こども園・保育所・小学校等】

- 子どもの育ち（姿）を中心に園と小学校等と対話をしましょう。
 - ・架け橋期において期待する子ども像（めざす子ども像）の共有
 - ・園と小学校等が共通の視点で話し合い、相互理解する
（共通の視点の例：育みたい資質・能力、指導上の配慮事項 等）
 - ・話し合ったことを架け橋期のカリキュラムとして可視化
- 持続的・発展的な架け橋期のカリキュラムにしましょう。

＊１ 架け橋期のカリキュラム・・・・・・・・・・幼保小が相互理解を深めるために、幼児期から児童期の発達を見通しつつ、５歳児のカリキュラムと小学校１年生のカリキュラムを一体的に捉え、幼保小が協働して作成するもの。

＊２ 架け橋期のカリキュラム開発会議・・・各地域において、幼稚園、保育所、認定こども園、小学校等、教育委員会、保育担当課、教員等の養成や研修（管理職を含む）に関わる大学や専門学校、幼保小の関係団体、保護者や地域の関係者、有識者等から構成される。（開発会議は、自治体に設置）



関係者間の『対話』をもとにして 子どもたちの学びをつなぐ幼保小接続

～三朝町の取組～

園の先生は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に照らして、どんな育ち（姿）が見られたかをメモしながら1年生の授業を参観しました。

授業公開後の連絡会（三朝町実務者会議）では、メモをもとに子どもたちの学びの中の育ち（資質・能力のつながり）について『**対話**』をしました。

さらに子どもたちの育ち（姿）が、校区的めざす子ども像『自分の思いを伝え、相手の思いに気づき、一緒に活動を楽しむ子ども』にどうつながっているのかについて、『**対話**』をしていきました。

最後に、『**対話**』から気付いたことを園の先生、小学校1年生担任それぞれが話をしました。

POINT

子どもたちの学びの連続性を図るために、子どもの姿の共有からさらに『**対話**』を深めることで、各自が自らの指導方法や指導内容を見直し、そのことを「架け橋期のカリキュラム」で可視化していきましょう。

授業参観後の連絡会

子どもたちが話し合う姿や字が書けるようになった姿を園の先生方に見てもらえるように、工夫して授業をしようかな。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に照らして子どもたちの育ち（姿）をメモしておこう。



園の先生

～1年生活科の授業の様子～

ワークシートにひらがなを書いたり、絵を描いたりして、一生懸命がんばって学習していたな。（数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚）

授業で見られた子どもの姿を出し合ってみましょう

幼保小接続
アドバイザー



～連絡会の様子～

友達の発表を聞いて、園での経験や自分の経験と結び付けて考えていたな。（社会生活との関わり）

校区的「めざす子ども像」に関わる子どもの姿を出し合ってみましょう。

探検で見つけたことを、みんなの前で自分なりの表現で発表していたな。（言葉による伝え合い）



隣の席の友達と話をしながら、自分の好きな方法でお礼のお手紙を書いていたな。（協同性）

子どもが今までに様々な経験をしていることが改めて分かったので、もっと子どもの声を聞いていくようにしたいと思います。

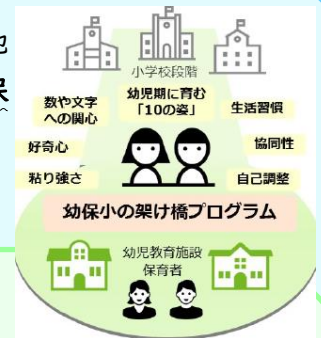


今日の子どもの姿から、それぞれが明日から生かしていけることを考えてみましょう。

子どもが標識を意識できるような提示の仕方が参考になった。園でも標識について触れながら散歩に行こうと思った。

幼児教育スタートプラン

学びや生活の基盤を支える幼児期からの教育の充実を図り、施設類型や地域、家庭の環境を問わず、全ての子どもに対して格差なく質の高い学びを保障する。



幼保小の架け橋プログラム

5 歳児から小学校 1 年生の 2 年間で「架け橋期」と位置づけ、全ての子どもに学びや生活の基盤を保障するため、自治体のリーダーシップのもと、カリキュラム開発会議等、体制を整え、「架け橋期」にふさわしいカリキュラムを作成・評価することで、教育の充実・改善を目指すプログラムである。

架け橋プログラムのねらい

- 幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5 歳児のカリキュラムと小学校 1 年生のカリキュラムを一体的に捉え、地域の幼児教育と小学校教育の関係者が連携して、カリキュラム・教育方法の充実・改善にあたることを推進 **架け橋期のカリキュラム**
- 3 要領・指針、特に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の正しい理解を促し、教育方法の改善に生かしていくことができる手立てを普及
- 架け橋期に園の先生が行っている環境の構成や子どもへの関わり方に関する工夫を見える化し、家庭や地域にも普及
- 幼児期・架け橋期の教育の質の保障のための枠組みを構築し、データに基づくカリキュラム・教育方法の改善を促進

出典：「令和5年度幼児教育の理解・発展推進事業（中央協議会）」
文部科学省 初等中等教育局 幼児教育課 幼児教育調査官 講義資料を基に作成
・ここで言う「データ」とは、幼児教育に係る調査研究等を指します。

幼保小の接続の改善ポイント

	これまで	これから
目的	小学校への順応	学びの連続
内容	交流活動	カリキュラム編成
期間	数か月	2 年
実施単位	施設単位	地域単位



POINT

体制づくりをし、園と小学校等とともに連続性・一貫性のあるカリキュラムにしていきたいと思います。

これからの幼保小接続では、子どもたちの育ち（姿）を中心に**対話**をしましょう。

語ろう！
子どもたちのこと

実際の子どもの様子を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点に語り合しましょう。

相談しよう！
期待する子ども像
(めざす子ども像)

市町村・校区ごとに語り合い、期待する子ども像に向かって園、小学校等でそれぞれの取組を考えましょう。

知ろう！
園・学校のこと

それぞれに尊重すべき違いがあり、一方が他方に合わせるのではなく、互いの教育内容や大切にしている指導、支援を知ることが大切です。

つなげよう！

園と小学校等が共通の視点について話し合うことで、指導内容や指導、支援が具体的かつ系統的につながります。

「架け橋期のカリキュラム」を検討・開発していきましょう。

① ここからスタート！

「期待する子ども像（めざす子ども像）」を園と小学校等で共有しよう。

② 園と小学校等が**共通の視点**で話し合い、互いに理解し合おう。

③ 話し合ったことを「架け橋期のカリキュラム」として可視化しよう。

5歳児												小学校1年生													
共通の視点として考えられる項目(例)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
期待する子ども像 (めざす子ども像)		架け橋期の2年間を通して、どのような子どもを育てたいか。※手引きP.24,25 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりにし、保育や学習、生活の場面から具体的な子どもの姿をあげて話し合う。																							
育みたい資質・能力		「期待する子ども像」をどのような「育みたい資質・能力」で捉えるのか。 ・「期待する子ども像」を具体的な子どもの姿であげ、「育みたい資質・能力」で整理する。																							
遊びや学びのプロセス		「期待する子ども像」の育成に向けて、子どもの姿や発達を踏まえ、遊びや学びのプロセスをどのように深めていくのか。※手引きP.26,36～38 ・「期待する子ども像」に近づく具体的な事例を出し合い語り合うことで、お互いの「遊びや学びのプロセス」について理解し、教育・保育方法について見直す。																							
園で展開される活動 小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等		「期待する子ども像」の育成に向けて、園の活動と小学校の各教科等の教育内容や活動をどのようにつなげていくか。※手引きP.27,28,39～42 ・園：小学校以降の生活や学習を見通した幼児教育の工夫。 ・小学校等：園での遊びや生活を踏まえた小学校教育の工夫。 スタートカリキュラムにより生活科を中心とした各教科等の合科的・関連的な指導の工夫。 ・園と小学校等：共通に充実をめざす活動や体験の共有。																							
指導上の配慮事項	先生の関わり	・子ども同士の考えをつなぎ、子どもとともに創造する。多様な子ども一人一人の可能性や活躍の場を引き出す集団づくり、といった視点は共通していることを踏まえ、各施設段階での先生の関わりや役割について捉える。※手引きP.43,44 遊びや学びのプロセスを深めるため、先生の関わり、環境の構成や環境づくりとしてどのような工夫があるか。※手引きP.29																							
	環境の構成・環境づくり	・子どもにとっての教育的価値の視点から、その共通性の理解を深め、教材としての環境づくりを考える。※手引きP.45,46																							
子どもの交流		交流を通じた学びを深めるため、各園・小学校の年間の活動に、子ども同士の交流などをどのように位置付けるのか。※手引きp.30 ・年間計画に子ども同士の交流を位置づけ、交流する対象の年齢・学年、交流時期、交流のねらい等を共通理解する。																							
教員の交流		・園と小学校等の先生同士の交流（連絡協議会・合同研修会・交流の振り返りの会等）を年間計画に位置づけ、子どもの育ちを共有する。																							
家庭や地域との連携		「期待する子ども像」について家庭や地域と共有し、どのように連携協働していくのか。※手引きP.30																							
評価		園と小学校等の先生が実践を一緒に振り返り、評価する。																							



「鳥取県幼児教育センターホームページ」に
鳥取県架け橋期のカリキュラムの検討・開発のポイントを掲載しています。



基本方針（２） 架け橋期の教育の充実

目標② 幼保小の協働による架け橋期の教育の充実

幼保小の継続的な対話の中で、教育活動を評価し、それぞれの教育を充実するよう努めます。

【推進のための具体的な取組】

【県・県教育委員会】

- 小学校区等の研修会での指導助言
 - ・「幼児教育において育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた幼保小合同研修会の指導助言
- 市町村・設置者との連携・協働
 - ・実施状況の把握・検証のための支援
 - ・方針の改善・発展のための支援
- 取組の好事例の収集・発信

【市町村】

- 小学校区等の研修会の推進・支援をしましょう。
 - ・「幼児教育において育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた幼保小合同研修会の推進・支援
- 持続的・発展的な取組を支える支援の定着を図りましょう。
 - ・研修、研修教材の改善・発展
 - ・必要な支援策の改善・発展
 - ・園・小学校等と関係機関との連携のコーディネートの改善・発展（例：１年生アドバイザー等）

【幼稚園・認定こども園・保育所・小学校等】

- 接続を見通し、各園・小学校等で教育課程編成・指導計画を作成しましょう。
 - ・架け橋期のカリキュラムにおけるスタートカリキュラム（＊６）及び５歳児年間指導計画の位置付けの見直し
- 持続的・発展的な架け橋期のカリキュラムにしていきましょう。
 - ・人やものとの関わりを通じた学びを踏まえ、教材としての環境の活用と充実
 - ・小学校以降の生活や学習を見通した園で展開される活動の工夫
 - ・園での遊びや生活を踏まえた、生活科を中心とした各教科等の単元構成等の工夫
 - ・園と小学校等が、共通に充実をめざす活動や体験の共有
 - ・架け橋期にふさわしい活動の在り方、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた教育方法の改善
- ＩＣＴも活用しながら、日々の教育実践や子どもの学びを「見える化」し、架け橋期の取組の意図を地域や保護者等へ説明していきましょう。

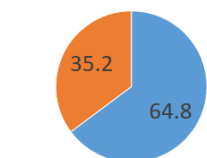
＊ スタートカリキュラム・・・小学校等入学時における幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえ、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことを可能とするカリキュラム。生活科を中心とした合科的・関連的な指導や弾力的な時間割設定などの指導の工夫が求められる。

鳥取県の状況



スタートカリキュラムについて
校区の園と連携・協議していますか？

35.2 64.8



■ 連携している ■ 連携していない

13

POINT

スタートカリキュラムの編成は進んでいますが、カリキュラムについて園と小学校等の連携・協議が進んでいないという状況が見られます。今後は、園と小学校等とで連携し、編成していくことをより意識していきましょう。

「令和3年度幼児教育調査結果」（令和4年3月）

カリキュラムを編成する際のポイント

5歳児年間指導計画等

スタートカリキュラム

- ☐ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりに編成
- ☐ 小学校等に期待をもち、自信をもつことにつながる遊び・体験
- ☐ 小学生等との交流活動などを考慮
- ☐ より自主的・主体的な遊びを意識
- ☐ 意図的に組み入れた協同的な遊び・体験
- ☐ 文字や数等に興味・関心をもつ環境の構成
- ☐ 校区等の期待する子ども像（めざす子ども像）の位置付け・小学校とのつながり
- ☐ 地域・園・小学校等の特色を生かした活動
- ☐ 保護者への説明
- ☐ 小学校等と校区内の他園と連携しながら作成

- ☐ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導の工夫
- ☐ 生活科を中心とした合科的・関連的な指導
- ☐ 短時間学習などを含めた時間割の工夫
- ☐ 園で経験した遊び・体験活動を活用
- ☐ 園での環境構成（視覚支援等）を活用した学びやすい環境作り
- ☐ 教職員や友だちと関わる活動、出会いの楽しさを感じる活動の工夫
- ☐ 校区等の期待する子ども像（めざす子ども像）の位置付け・園とのつながり
- ☐ 1年生の年間指導計画とのつながり
- ☐ 地域・園・小学校等の特色を生かした活動
- ☐ 保護者への説明
- ☐ 園と連携しながら作成

POINT

5歳児と1年生の年間指導計画、スタートカリキュラムについて、架け橋期のカリキュラムにおける位置付けを確認し、さらに見直しを行い、教育方法の充実・改善をしていきましょう。
小学校区、中学校区等の単位での取組を推進しましょう。



I C Tを効果的に活用した実践事例

- 園だより・学校だより等掲示
- ドキュメンテーションを活用した研修
- I C Tを活用した研修
- メールでの打ち合わせ（交流会の際、資料や記録のやり取り）等